

新年のごあいさつ



小金井市長
白井 亨

市民の皆様におかれましては、穏やかに期待あふれる新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

浅川清流環境組合の可燃ごみ処理施設が本格稼働してまもなく5年を迎えます。日野市の施設周辺の住民の皆様や関係者の皆様のご理解とご協力に深く感謝を申し上げます。本年もごみゼロタウン小金井をめざし、より一層の3Rを推進してまいります。

積年の市政課題であった新庁舎・(仮称)新福祉会館建設は、12月19日の市議会本会議にて関連の補正予算を可決いただきました。予定では今年7月に着工し、3年9か月後に市の中心部に新庁舎とともに、市民協働と災害対応、そして保健センターや子ども家庭センターを含めた福祉のまちづくりの総合拠点が開館することになります。今後の跡地活用をはじめとして、DXのさらなる推進や窓口改革等、せきを切った

かのように新庁舎等への移転に向けて、さまざまな検討を進めます。引き続き市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

昨年は1月1日夕刻に能登半島地震が発生しました。災害対応力の強化もまた重要課題であったことから、11月に桜の縁で繋がりのあった茨城県桜川市と災害時相互応援に関する協定を締結しました。いざ大災害が発生した際にお互いに助け合う関係を今後もさらに広げていきたいと考えています。また、避難所運営の訓練や宿泊体験、防災にまつわる地域単位の取り組みも増えた印象があります。地域で助け合うことができるためにも、住まわちの日常が豊かになるためにも、さまざまな地域コミュニティは重要だと考えています。

名勝小金井(サクラ)名勝指定100周年を終え、引き続き山積する課題と真摯に向き合い、新しい小金井をつくり、未来につなげていくためによき1年とすべく、全力で取り組む所存です。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



小金井市議会議員
宮下 誠

新年あけましておめでとうございます。

はじめに、小金井市の可燃ごみの共同処理をおこなっている浅川清流環境組合は令和2年4月から本格稼働を始めており、まもなく5年が経過しようとしています。本事業に対しご理解とご協力を賜ります日野市の関係者、施設周辺の住民の皆様には改めて深く感謝を申し上げます。こうしたご理解・ご協力に答えていくためにも、市民の皆様には引き続き可燃ごみの減量と適正な分別へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

昨年12月、ノーベル平和賞が日本被団協(日本原水爆被害者団体協議会)に授与されました。同協議会の皆様に対し心からお祝いを申し上げます。

式典では同協議会の代表委員であり、長崎原爆の被爆者の一人、田中熙巳氏が演説しました。授賞式の華

やかさとは裏腹に、13歳の少年だった田中氏が語る当時の状況は悲惨極まりないものでした。さらに、最も苦しかった時期と言われる戦後の「空白の十年」を経て日本被団協が結成され、その後も長く苦闘を続けてきた経緯に思いを巡らせると、厳粛な気持ちにならざるを得ません。

市では、昭和57年に市議会で議決された小金井市非核平和都市宣言に基づき、恒久平和と核兵器廃絶の願いを込めて、毎年、非核平和事業を実施しています。そして事業の一環として、市民の皆様が原爆ドーム見学や広島平和祈念式典等に参加する平和行事参加の旅が平成2年に始まりました。議会からの提案を受けて実施に至ったもので、費用の約2分の1が補助されます。ぜひ、青年世代の方々に参加いただき、核なき世界を求める日本被団協の志が次世代に引き継がれることを切に願います。本年もよろしくお願いいたします。

写真ニュース

小金井桜は名勝指定100歳



大正13年12月9日に文化財指定されてから100年を迎えました。

100周年記念式典および笑顔広がる！小金井桜フェスを令和6年12月8日に執り行いました。



FC東京年次報告会を開催



左から俵積田選手、バングーナガンデ選手、東選手 令和6年12月11日に俵積田晃太選手、バングーナガンデ佳史扶選手、東慶悟選手が来庁しました。

2024シーズンの報告と来シーズンへの意気込みを語っていただきました。市長から今後の活躍への期待を込め激励しました。

障害者就労支援センター 勤続表彰式



令和6年11月24日に、一般企業で3年、5年、10年、15年勤続した障害者就労支援センターに登録している方の表彰式を行いました。

